

第4回 水環境マネジメント検討会 議事要旨

日時 平成25年1月23日 10:00~12:00

場所 日本下水道協会大会議室

委員の主な意見は以下のとおり。

1. 流総計画の見える化について

- ・ 流総の基本は汚濁負荷の削減だと思うが、河川がよみがえるというのには流量の要素もある。一般の人に示すには負荷量一辺倒ではなく、流量も含めた見せ方が必要ではないか。
- ・ 東京都においては河川的环境基準はほぼ達成しており、提案されている見せ方を行った場合は、大半の区間は青色で着色され、これまでの効果を示すことは可能である。一方、東京湾など継続して改善の必要がある部分で、流域全体でさらなる事業の必要性を説明する場合の足かせとなることも懸念されるので、慎重な取り扱いが必要である。
- ・ 流総計画は、下水道の計画でありながら、社会全体の計画としてどう位置づけオーソライズするかが課題である。
- ・ ノンポイントの負荷削減が進んでいないのが問題であるため、削減の必要性がわかるように示す必要がある。

2. 資源・エネルギーポテンシャルの算定例について

- ・ ポテンシャルをこのようにまとめて示すことでわかりやすくなると思う。
- ・ ポテンシャルの内容は一般的なものだけではなく、地域によって実態に合った方式で明示してもよいのではないか。
- ・ 流域におけるエネルギーポテンシャルを示すことで、有効活用につながるのではないか。

3. 水環境マネジメント検討会報告書骨子案について**(1) 流総計画について**

- ・ 環境基準以外の目標像の設定は、河川毎に設定するのか、全体として設定するのかわからない。
- ・ 環境基準の見直しでも水生生物が議論に上がるため、下水道整備時にも水生生物の保全について考慮してはどうか。
- ・ 広域行政体で検討する流総計画の中に、基礎自治体の課題である地先の水質等を盛り込むためには、計画策定過程での仕組みづくりの検討が必要である。
- ・ 流総計画の見える化の必要性をもっと説明するべきである。
- ・ 合理的な負荷配分とは、合意をもった上での合理的な負荷配分（自治体間、事業間の両方）という意味なので、表現を工夫するべきである。

- ・ 流総計画の検討メニューは増加するので、軽微な変更に対してのルール整備等も含めて流総計画策定作業の簡略化が必要である。
- ・ 幅を持った予測は、各自治体とも財政難なため、最も緩い対策を選ぶ恐れがある。
- ・ 高度処理の推進にはインセンティブが必要である。
- ・ 今後の課題は、高度処理の場合や面整備も残っている場合など、流域毎で異なるため、流総指針改定時のモデル流域選定の際に配慮してほしい。

(2) 資源・エネルギーについて

- ・ 下水道の主な目的は生活環境や水環境の改善であるが、資源・エネルギーの回収と利用も重要である。
- ・ 資源・エネルギー利用を推進させるために他事業との連携の場の設定が挙げられているが、インセンティブを持たせるには、ユーザー側でも B/C が有利になることが求められる。そのためには、これまでの補助の範囲を超えた、エコカー助成のような新たな制度創設が必要である。
- ・ 下水道は、水処理だけでなく、汚泥の有効利用までが重要であるということを明示すれば、エネルギー・資源の検討が必要とわかるのではないか。
- ・ 下水道のエネルギーは地域全体で見て大きいのか小さいのか、その対策は社会全体から見て率先してやるべき課題かどうかを見えるようにすべき。下水汚泥にあわせて、し尿やゴミまで対象を広げることの是非について検討課題とすべき。
- ・ どの処理場も節電やコスト削減を実施しており、また処理レベルとエネルギーはトレードオフの関係であるため、流域全体でのエネルギーの最適化の検討は難しいと思う。
- ・ 合理的な負荷配分に関する意見が出たが、処理の程度と費用には相関が強いと考えられるので、一人当たりのエネルギー負担の公平性で議論すれば費用の話が出ずにスマートに議論できると思う。

(3) その他

- ・ 下水道事業の主体は地方自治体なので、国の関与の範囲がこれまでの制度的・財政的な面からどの程度広げるのかは慎重に議論すべきである。
- ・ 取り組み方針を「早期着手すべき事項」と「今後の検討事項」に分類しているが、検討の着手と計画への反映（実施）のいずれなのかを分かりやすく示してはどうか。
- ・ 環境教育と市民との協働に関する今後の方針の説明が不足している。
- ・ 最近ではインフラ全体の老朽化対策が話題であるため、本委員会でも触れてみてはどうか。
- ・ 処理水質から各処理場の処理方式を決めるやり方が、現在の実作業ではたいへんラフである。画一的でない処理レベルを設定したとき、処理水質とエネルギーとコストのバランスに配慮して実際の施設計画に反映するためには、新たに精度の高い費用関数を作るなどの検討が必要。